

JICA Brazil Business Communication

～ブラジルの第一線で活躍するビジネスパーソンの皆様へ～

目次

1. 民間企業との連携

- (1) 持続可能な農業を目指し・日伯農業対話で求められた日本技術
- (2) 温暖化抑制を！省エネ基準見直しを目指すダイキン工業の取組

2. トピックス

- (1) アマゾン森林火災に対する緊急援助物資・テントの供与
- (2) パートナー歴30年間・UNICANPでの真菌ラボ拡張開所式
- (3) ブラジルでは一般的でない末期患者への緩和ケア
- (4) 邦字紙面に多数掲載！自然との共生を目指すアマゾン日本人移民

《今後の主なイベント》

11月4日（月）14:00～16:00：ブラジル ODA60 周年式典 @ジャパン・ハウス

11月4日（月）19:00～21:00：JICA 北岡理事長フジタ・ニノミヤチェア特別講義 @USP 法学部

【コラム】 ～JICA 北岡理事長来伯に伴う USP での特別講義～

JICA 北岡理事長の来伯に伴い、11月4日（月）19時より USP 法学部（@セントロ）にてフジタ・ニノミヤチェア特別講義「日本の近代化と日伯関係」を行います。本講義は一般公開のため、社会人の皆様も是非ご参加をお待ちしております。（写真は講義会場）

～～ 日本開発研究プログラム 特別講義 ～～ （フジタ・ニノミヤチェア）

- 日時： 11月4日（月）19時～21時（18時開場）
- 場所： USP 法学部キャンパス大講堂 “Salão Nobre”
- 講師： JICA 理事長 北岡伸一
- 講義内容： 日本の近代化と日伯関係



参加申し込みは下記リンクからお願い致します。

JICA HP: <https://www.jica.go.jp/brazil/portuguese/office/activities/brazil06.html>

JICA Facebook: <https://www.facebook.com/jicabraziloffice>

1. 民間企業との連携

(1) 持続可能な農業を目指し・日伯農業対話で求められた日本技術

8月26日、サンパウロ市内にて、吉川農林水産大臣、クリスティーナ・テレザ農務大臣の参加の下、第4回日伯農業・食糧対話が開催されました。伯側はニシモリ連邦下院議員、農牧研究公社（EMBRAPA）のモレッチ総裁等、日本側は野口総領事、JETRO、JBIC、商工会議所、民間企業、JICA等が参加。農務大臣、EMBRAPA 総裁らからは、JICAのセラード農業開発協力事業を中心とする過去の協力に対する謝意が述べられるとともに、今後の世界人口増加を見据えた世界の食糧安全保障と、アマゾン熱帯林の保全両立のための持続可能な農業開発の重要性、必要な革新技術の導入において、日本との協力を期待が示されました。

今次対話では多岐にわたるテーマが議論されましたが、長年の農業分野での協力により培った日伯間の信頼関係は非常に強いことが確認されました。先方農務大臣、EMBRAPA 総裁等の持続可能な農業開発にかかる要望も踏まえ、民間技術も活用したより具体的な協力内容について検討を進めていきます。



日伯農業・食料対話の様子



参加者の集合写真

(2) 温暖化抑制を！省エネ基準見直しを目指すダイキン工業の取組

地球規模での温暖化抑制及びCO2削減のため、ダイキン工業株式会社はインバータエアコン等の省エネ性の高い空調機を世界に普及することに取り組んでいます。インバータとは、電圧・電流・周波数を制御する技術であり、インバータを搭載したエアコンは、エアコンの心臓部である圧縮機のモータを的確にコントロールします。さらに従来のモータや熱交換器に改良を加えることで、インバータなしのエアコンに比べ約58%の消費電力を削減できるとのことです。

ブラジルでは10年間改訂されていない脆弱な省エネ基準を見直すため、JICA 民間連携事業「環境配慮型省エネ空調機普及促進事業」を通じ、鉱物・エネルギー省と協力して伯国3大学にて実測試験を行い、試験結果に基づく省エネ政策効果の定量化や政策アプローチ提言等を行っています。

直近では、9月30日～10月6日に伯国関係者を本邦技術視察にて受け入れ、ダイキン工業の施設（工場含む）、家電量販店、一般財団法人省エネルギーセンター、一般財団法人日本空調冷凍研究所、経済産業省を訪問し、意見交換を行いました。今後、ブラジルにて省エネ空調機の性能評価規格の導入が加速されることを期待しています。



ダイキン工業の工場視察



家電量販店の店頭視察

上記ダイキン工業が活用中のJICA 民間連携事業に関し、現在2019年度第2回「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」の提案を募集中です。本事業では開発途上国の課題を解決する優れた技術や製品を有する日本企業の海外展開における渡航調査費用等を支援します。提出期限は11月1日。

◎詳しくはこちら：https://www.jica.go.jp/priv_partner/announce/index.html

2. トピックス

(1) アマゾン森林火災に対する緊急援助物資・テントの供与

9月23日、伯国外務省にてアマゾン森林火災に対する緊急援助物資の引渡式を実施しました。伯側から外務省を代表しルイ・ペレイラ国際協力庁（ABC）長官らが、日本側は山田彰在ブラジル大使、JICA ブラジル事務所長の佐藤が出席しました。伯側からは、日本の迅速な支援に対する深い感謝の意が示され、物資配布を受けた先方関係者からも「テントが想像以上に大きく、快適だ」「これでよく夜も休める」といった声を頂きました。



(2) パートナー歴 30 年間・UNICAMP での真菌ラボ拡張開所式

9月、サンパウロ州立カンピーナス大学（UNICAMP）において、「ブラジルと日本の薬剤耐性を含む真菌感染症診断に関する研究とリファレンス協力体制強化プロジェクト（SATREPS）」協力による同大学附属病院の真菌ラボラトリー（LEMDI）のリニューアル開所式が同学学長、在サンパウロ総領事等の参加も得て開催されました。本施設整備により、真菌の薬剤耐性化による脅威に対する地域研究機関としての機能強化が期待されます。

なお同学は本年、30年に亘るJICAとの協力、パートナーとしての貢献からJICA理事長表彰を受賞されました。



(3) ブラジルでは一般的でない末期患者への緩和ケア

8月にJICAは、学校法人日本赤十字学園 日本赤十字北海道看護大学の提案により実施してきた草の根技術協力「SBC病院緩和ケア教育プロジェクト」の終了を前に、一般市民向けに緩和ケアセミナーを開催し、約140名が参加しました。セミナーでは、当国では未だ一般的ではない末期患者への緩和ケアについて、カウンターパートの医師、看護師等が各自の立場からその必要性和プロジェクトを通じた取り組みについて紹介し、緩和ケアの認知向上の機会を提供しました。

参加したパラナ州の医師からは「是非自身の病院でも緩和ケアを取り入れたい」と他病院への普及拡大も期待できる発言がありました。

(4) 邦字紙面に多数掲載！自然との共生を目指すアマゾン日本人移民

9月にトメアスー、ベレン、マナウスの各地で開催された「アマゾン日本人移住90周年記念式典」に併せJICAでは、在伯本邦メディアの皆様を対象にしたプレスツアーを実施しました。ツアーには4社（日経新聞、朝日、毎日新聞、共同通信）に参加頂き、10以上の日本国内メディアでの報道に繋がりました。緑の地獄と呼ばれたアマゾン地域、トメアスーにおいて、日本人移民・日系人が試行錯誤の末開発したアグロフォレストリーの取組が日本にも届き、心から嬉しく思います。

また、ベレンの式典にてパラ州知事は、挨拶冒頭、これまでの協力への感謝、実施中の幹線バスシステム事業（円借款）について都市交通分野の州政府政策に大きく貢献する協力と言及し、トメアスー式アグロフォレストリーについては、森林保全と生計向上を調和的に実現するものと称賛されました。



以上

今後も皆様にご関心を持って頂けるよう、内容の充実を図る所存でございます。つきましては、ご意見、ご要望等ございましたら、下記連絡先までご連絡いただければ幸いです。

今後とも引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。

【問い合わせ・連絡先】

国際協力機構（JICA）ブラジル事務所

（※7月1日よりサンパウロが事務所になりました）

担当：間瀬 将成

電話：(11)-3251-2655 (ex.105)

Email：Mase.Masanari@jica.go.jp